

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |   |  |  |            |
|----------|------|---|--|--|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題  | 目標   | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容   | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 1    | 職員に対する理念の具体的な周知の必要がある。  | 職員が日々のケアにおいて理念に沿った行動を取れるようになる。   | その年の年間目標や月間目標を設定し、職員が意識的に取り組みやすいよう目標設定を行っていく。<br>また、目標に対しては実施ができていないか確認し、でないようであれば、理由を職員間で考え、業務改善や研修を含めた職員のソフト面の改革なども検討する。             | 6ヶ月        |
| 2        | 8    | 身体拘束の研修会は実施しているが、それに伴う職員の意識についてのモニタリングは実施していないため、モニタリングを行いながらそれぞれの自己覚知を支援する必要がある。                             | 身体拘束や高齢者虐待など権利擁護について職員それぞれが理解し、それに陥る可能性が誰しも有り、それを行わないための自己コントロールを行うことができる。 | 虐待の芽チェックリストの活用、権利擁護や身体拘束の勉強会を行い、それに対する知識習得やモニタリングを行っていく。<br>運営推進会議などを活用し身体拘束廃止のための委員会を行い、地域へも情報が発信することを旨とする。                           | 3ヶ月        |
| 3        | 36   | 実際の災害時には家族や地域住民との協力が必要となる為、避難訓練等において職員のみでのシュミレーションとなっており、実践的ではない。コロナ禍であるため、今後withコロナの中での災害備蓄についての見直しを行う必要がある。 | 訓練時のメンバーの見直しを行い、より実践的なシュミレーションが行える。<br>備蓄リストの見直しや賞味期限等の把握が計画的継続的に行えるようになる。 | 避難訓練時は目黒巻を使用した実際の人員の細かな動きを確認するとともに、その他の協力してもらう人員(家族や地域住民)への具体的な支援依頼方法などの見直しを行う。また、訓練時には地域住民や家族への参加の呼びかけを行っていく。<br>備蓄リストの作成、確認の計画を立案する。 | 12ヶ月       |
| 4        |      |   |  |  | ヶ月         |

